

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 栄寿荘
(ユニット名)	I
所在地 (県・市町村名)	佐賀県杵島郡江北町大字上小田280-1
記入者名 (管理者)	大崎 克己
記入日	平成 19 年 11 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の尊厳を守り、その人らしく生活していただく為の理念づくりを、管理者、職員全員で協議し作り上げた。	○	理念を理解し、更に全体の質の向上を図っていききたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、管理者と職員が理念をともに意識し、話し合い、実践が理念に基づいたものになるよう努力している。	○	施設理念のほかに、個々のスタッフが自らに課した目標(理念)を実践できるよう、管理者のスーパーバイザーとしての役割にも取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設理念を家族や地域の人々にわかりやすい位置に明示するとともに、日々、啓蒙活動も積極的に行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の趣味のサークルや団体へ呼び掛け、定期的に入居者とのふれあいを図っている。又、日ごろより近隣、馴染みの方々へ声掛けし、気軽な立ち寄り場として活用して頂くよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域区長、老人会会長、民生委員、他近隣との連携を密にとることで、地元の行事(夏祭り、くんち、保育園園児による慰問など)を通じ、好ましい交流の形がとれていると思われる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町社協と話し合い、チャリティー募金等に参加している	○	地域の中で、高齢者福祉の身近な相談窓口としての役割を担う事ができるよう、各スタッフの研鑽を積んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価、行政実地指導での指摘をスタッフミーティングで話し合い、業務改善につなげています。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の生活状況や個々のケアプランの検証など話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○	今後、運営推進会議で外部評価の取り組み、評価後の改善への取り組みをモニターしてもらっていききたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設運営上の疑問や利用者サービスについての問題点など、市町村へ直接に何うなど積極的に関わり、意見の交換や改善点等助言頂くよう努めている。	○	市町村担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情などを積極的に伝えて、共に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護に関する制度に常に興味を持ち、利用者、家族に対し必要な助言や関係機関への紹介など行っている。	○	一部の職員のみ知識にとどまらず、スタッフ各々も積極的に研修に参加し、スキルアップを図っていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや施設内研修の場において「高齢者虐待防止」について具体的に問題提起し、常に自省しながら業務にあたっている。管理者も第三者的視線で虐待や利用者の人権が損なわれていないかのチェックを行い、虐待防止に努めている。	○	高齢者虐待防止の第三者委員会を設置していききたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>意見箱や相談受付の掲示物はあっても、現在までに直接に苦情や意見が寄せられてはおらず、利用者への周知も折々に行う必要があると思われる。日々、生活のなかで気軽に意見交換できるような関係作りは今後も努力行っていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>寄せられたご意見や苦情は当事者(ご本人、家族、施設)間で解決されてしまっており、今後は家族会などにおいても実績報告の機会を設け広く意見を頂けるような取組や雰囲気作りに努力していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>両ホームの人材の交流に密にし、常に互いをフォローしあえる体制を充実させていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上を図るため、各自の立場、経験、習熟度に応じた育成を事業所内外の研修の場に積極的に参加させている。	○ 職員が働きながら、技術や知識を身につけていくための方策を工夫して、質の向上に努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の見学、交流をオープンにし総合評価などを通じ連携深めている。近隣町村のホーム管理者と情報交換を密にし、グループホーム協会の取り組みに参加する事で常に新しい情報を得る努力をしている	○ 今後、連携ホームの職員の相互交流や合同勉強会、懇親会を積極的に行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員個々との対話の機会を多く持つように努め、不満、ストレスの軽減に取り組んでいる。休憩室は別棟にあり、業務と休憩時間とのメリハリも良好にとれていると思われる。又、職員とともに職場環境を整えストレスの要因をみんなで話し合える関係作りに努力して	○ 小規模、少人数の職場であり、利用者と密接に関わることにより職員にストレスがかかりやすいため、今後もストレスが軽減するような工夫していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士、介護支援専門員の取得を推奨し、バリデーションタ、クティールケア等の技術の習得に力を入れています。	○ まだ全スタッフの向上心にバラツキがあり、温度差の解消に努めたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談は家族や関係機関からあがる例が多いが、入荘の事前にはできる限り家族とともに施設見学して頂き、直接にご本人自身からのお話を聞き取りするように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個々スタッフも初期相談の受け入れ時から和やかな雰囲気に対応しており、ご家族の不安、要望には傾聴しながら信頼関係の構築につとめている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○	おおむね全般のご家族との連絡、連携とれているものの、更に信頼関係を深め支援の体制を強化していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○	利用者のなじみの場所やなつかしい風景を探す「近隣ふるさとドライブ」を実施しているが、利用者の皆さまにも喜んでいただいております、今後も気軽なお出かけの機会を多くもてるよう努力したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○	利用者同士の相性もあり、食堂席の組み合わせなど工夫を要する場面が多々あるが、できるだけ利用者の皆さんが良好な関係で生活を送っていただけるよう、臨機応変で対応を考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了(入院や移設など)された後も面会や様子伺いなどで、ご本人やご家族への側面でのサポートおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と多くコミュニケーションをとり、少しでも希望等を聞き実現可能な事は家族と相談し受け入れるようにしている。		できるだけ家族と関わりをもって本人とのふれあいの場を作りたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族から情報収集し言葉かけしながら馴染みの暮らしに近づけるよう、スタッフと共に家の近くにドライブに行く計画を立てている。		昔の風習を行事などに取り入れていきたい。地域行事への参加をはたらきかけていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	無理強いのない一人々ゆっくりした時間を過ごしていただけるような言葉かけをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一度の計画の見直し、変化のあるときは随時検討会をおこなっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、日々の記録、評価(毎月)、家族からの情報を元にミーティングをおこなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様の突発的な受傷や病変時、どうしてもご家族で対応できない時などは職員が対応し、ご家族が来られるまでの対応をしたり、死亡時に家族不在時の時も職員で対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、区長、町福祉課職員、社協職員との協力による行事(文化祭等)への参加を行っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム内のスタッフや同法人のドクター、ナースの意見だけで外部のケアマネジャー等のアドバイスはもらっていない	○	生活リハに対する理学療法士や作業療法士、在宅での生活歴を知る居宅支援事業所のケアマネジャーとのケアプラン作成の共同を行っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	江北町包括支援センター職員の方に運営推進会議に参加して頂きケアに対するアドバイスを頂いている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の信頼関係にあるかかりつけの医師への受診を第一に考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の診察を受け専門医への紹介		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常勤として勤務しており(兼介護)、利用者の健康管理や服薬管理おこなっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様の入院時には容態の把握の為の訪問を行い、スムーズに帰荘出来るよう援助している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意志を尊重し、契約時に看取りに関する話、特変時に対する対応を話しています。	○	まだホームでの看取りの実績がない(病院が隣接している)ので、今後も職員には意識の向上を図っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	隣接する病院のドクター、ナースと協議し、ケアにあたっています。また施設長をはじめとして緩和ケアの知識の研鑽に努めています。	○	今後も悪性疼痛だけでなく、良性疼痛への緩和のアプローチを行っていききたいと思います。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む環境情報収集をおこなうと共に本人への励ましの言葉かけ、情報提供をおこなう。	○	居宅新事業所のケアマネージャーと協議し、在宅での生活歴の情報を活用していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の尊厳、プライバシーの尊重を常に念頭に置き対応をこころがけている。個人情報守秘義務を徹底し記録など不用意な持ち出しは厳禁としている。	○	常に自分の人権意識を自省しながら日々の業務に当たるよう努力していきたい。業務の始まりには全員で「五省」を唱和することで内省をうながしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	細やかにコミュニケーションをとることでご本人のニーズを把握するように努めている。しかし、認知症の状況によっては訴えの内容がつかみきれない場面が多々あり、対応については十分とはいえない。利用者の個別性を大切に潜在ニーズの把握に努力したい。	○	職員間の情報の共有や資質の向上のための研修や、資格取得のための取り組みをおこなっていききたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに沿った対応と心掛けているが、それでも業務優先、職員の都合を押し付けているのではという反省が常にある。しかし、その場合でもしっかりと利用者への説明、理解を得た上でと努力している。	○	その人らしさと言う事をもっと追究し、こちらのペースの押し付けではなく、ご本人の潜在的なニーズをつかみとれるような感覚をみにつけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人や家族へ希望を聞き、いきつけの店への予約や手配おこなっている。又、可能な限り送迎もご家族へお願いし協力いただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の力に合わせ食事の準備や配膳、片付けも分担しながらおこなっており、それぞれに役割を果たされている。又、荘の畑にささやかな季節の野菜を栽培し収穫されたものを食卓に利用するなどして楽しみにつなげている。季節毎に漬物作りや干し柿作りで利用者、職員の共同作業を楽しんでいる。	○	野菜作りも利用者(経験者)のアドバイスが適時有効にいただけており、今後も職員も楽しみながら続けていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、火災防止やご本人、他者の健康への配慮から喫煙については禁煙をお願いしている。入荘前に説明行い了解得られている。飲酒についても他者への暴力の危険あり、家族からの強い要望で禁酒支援おこなっている。現在のところ、どちらも良好な経過みられている。	○	誕生会などの祝宴の始まりには手作りの果実酒(利用者のご自宅に実った果実・ノンアルコール)で乾杯し雰囲気を楽しんでいただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケアプランに基づき、個々の排泄パターンを把握しながら適時誘導や排泄介助おこなっている。又、便秘傾向みられる利用者や、腸閉塞など予測される利用者の排便確認は徹底しおこなうようにしている。	○	尿漏れの頻度や尿量によって、尿パットの形状も個々の状況にあったものを細やかに見直し検討していくこと、又、排泄誘導の言葉かけやタイミングも工夫しながら利用者の快適な排泄環境を整えていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴介助おこなっているが、曜日や時間帯は施設主体で決めているため、利用者のニーズにあった入浴支援とはいえない。足浴やシャワー浴の希望には随時対応するよう心がけている。又、入浴拒否の利用者へは無理強いを避け、清拭やタイミングをみて再誘導試みるなどの対応を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体調に配慮しながら不眠傾向にあられる利用者については外気浴や散歩、他、昼間の活動を多くとっていただくよう援助おこなっている。就寝の時間についても個々の生活のペースに基づいたものとしている。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人々の個性を大切に、荘での生活の中での役割を果たしていただけるよう支援おこなっている。(食事の準備から片付け、洗濯から収納までの作業、自室や共有室の清掃他) 又、誕生会や屋外での活動など年間を通し計画を立て楽しみの行事を企画実施している。	○	個別の気晴らしの買い物や外出など十分に希望に添えていない部分もある。現在、天候の良い日には、利用者にとっての馴染みの場所へおつれし、戸外の風景にふれていただくと言う「近隣ふるさとドライブ」を大変喜んでいただっており、今後も安全を徹底しながら実施していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や家族の方と十分に相談し理解のもと、自己管理されている方、職員預かりを希望され職員の方で支援おこなっている方と個々であるが、いずれの方も自由に希望に応じた使用ができるよう援助おこなっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ希望にそえるよう努力し対応しているが、決して十分な対応はできていない。買い物についても、職員の業務(都合)にあわせての援助であり、ご本人主体のものにはなっていない。	○	業務の見直しやボランティアの活用など検討しながら、ご本人の意思を尊重できるよう努力していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設で対応困難な際も家族の支援協力を得られるよう、日頃より家族との連携を深めるよう努力おこなっている。	○	ご本人は何よりも家族とのふれあい、交流に幸福や満足を感じられている。今後もできるだけそのような機会を持っていただけるような働きかけをおこなっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望されるときはいつでも自由に家族との連絡取れるよう支援おこなっている。手紙、電話のやり取りはもちろん、聴覚障害をもつ家族へはFAXでの連絡なども対応おこなっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人など親しい方たちの面会時は自室でもDルームでもくつろいで時間を過ごしていただけるよう場面の設定をおこなっている。近隣の知人の方へも気軽に立ち寄っていただくような声かけし、実際にたびたび面会いただいている。	○	面会室や面会コーナーなどの限定された場所は現在のところないが、今後工夫、検討してみたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に対する考え方をスタッフで協議し、安全面で止むない場合以外での拘束の件を話し合い、拘束予防に努めている、不穏状態による徘徊にも抑制せず、付添いながら精神安定を試みている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	共同生活の中で自由に開放的な環境を提供する事は、入居者の心身に活動性と好奇心を養う事と理解し、特変時以外は日中の施錠はしない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入浴時、排泄時の見守りは個人の介護度に応じ、介入する対応は異なるが、細部に声をかけて了解を促し、コミュニケーションを取りながら援助している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等危険物については、本人に説明、納得された上でお預かりたり、ご家族族に保管して頂くよう相談している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止についてはバリアフリーやルームシューズは足にフィットし滑り止めのついたものを使用している。玄関内部にもセンサーを設置、チャイムがなり、離荘防止をはかっている。年二回防災訓練を実施している。配薬する人と薬を手配する人とダブルでチェックしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対策に研修にスタッフを派遣している	○	全スタッフにも周知、徹底する為にOJTの活用を行ってきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で災害時の対応を話し合い、構成員の方の提言もあっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や家族様面会時には利用者様の現状やホームの話などをして、家族との信頼関係を図っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事量、飲水量、排泄状況の管理、一日一度のバイタルチェック、バイタルの異変時の再検、病院報告を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は毎食前、後確認し、本人に手渡すか口中介助、薬袋のチェックを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、4～5日以上排便がないときは主治医への連絡をおこなっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の言葉かけにて、できるだけご本人で口腔ケアしていただく。自己管理できないかたに対し、チェック表を使用し介助おこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様毎に食事量をチェックしている。季節や天気に合わせて、利用者様が摂取しやすい食事や飲料を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	11月、インフルエンザ接種。ノロウイルス、食中毒など手洗い指導。感染症マニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に施設内の駆除、点検実施し衛生面の管理につとめている。調理担当者は手洗いなど衛生面徹底し、食材も新鮮度選別しながら安全な食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は明るく開放的な雰囲気、荘庭には季節の花々を利用者の皆さんと植え込みおこない楽しみにつなげている。又、芝生は外気浴やバーベキューなど楽しんでいただく場所として活用できている。他、毎日の洗濯干し場も荘庭にあり、開放感味わいながら作業していただいている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Dルームには利用者が作成される貼り絵の掲示や、花壇や散歩の途中で摘まれた季節の花々を思い々に飾られているなど生活の潤いが自然に感じられていると思う。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームは広くゆったりとソファなど配置し、思い々に自由な時間をすごされている。グループ活動への参加も個々利用者の自由意思を尊重し無理なお誘いは慎んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入荘の際、不都合のない限り本人の馴染みの家具や品物を持参して頂き、不安が軽減できるよう助言や対応おこなっている。又、家族の写真やお気に入りの品物を身近におくことでスタッフとの話題作りにも役割を果たしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚物などは滞りなく処理することで施設内の異臭防止に努めており、換気などは細やかに実施している。季節に応じて高齢者のお体に負担のないような室温(湿度)調整、管理行っている。冬季、Dルーム床は一面床暖房対応し利用者は勿論、家族面会の折にも好評いただいている。	○	今後も衛生面の環境に配慮していくことはもとより、ご本人たちの体調や季節、日々天候にあわせた空調環境を整えていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面はバリアフリー、各居室には洗面所、トイレ完備しプライバシー配慮しながら、且つ自立された生活を送られるよう整備している。浴室には手すりなど設置し転倒防止に努め、床面も木製のすのこを使用している。台所もIH対応で火災防止徹底しながら調理へも(野菜切り、味付け、盛りつけなど)へも積極的に参加促している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の清掃や洗濯ものの整理、食後の片づけなども個々の力にあった方法でしていただくよう、誘導や助言おこなっている。掃除道具→モップ(中型、小型)、箒、などの工夫や、食後の片づけ→洗い、すすぎ、ふきあげ、収納の分担など混乱やトラブルのないよう見守り、配慮している。	○	清掃は一斉の時間に作業したり、入浴の衣類の準備など職員サイドでさきまわりでおこなっているのではないかなどの反省項目がある。もう少し、個別の対応を検討しご本人の力で、もしくは声掛けや一部介助だけで可能な作業も見直していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候のよい日は、芝生で外気浴を楽しんだり、バーベキューなど戸外での食事を楽しんだり、又施設周辺の農道は交通量も限られているため、十分な見守りの下、格好の散歩コースとして活用している。又、荘畑には利用者と共に季節の野菜作り、収穫の楽しみへとつなげている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)